

農業を取り巻く情勢の変化



栃木県の農業の現状

栃木県の農業産出額（R4年産）

2,718 億円（全国9位）

※R3年産

2,693 億円（全国9位）

＜他都道府県の状況＞

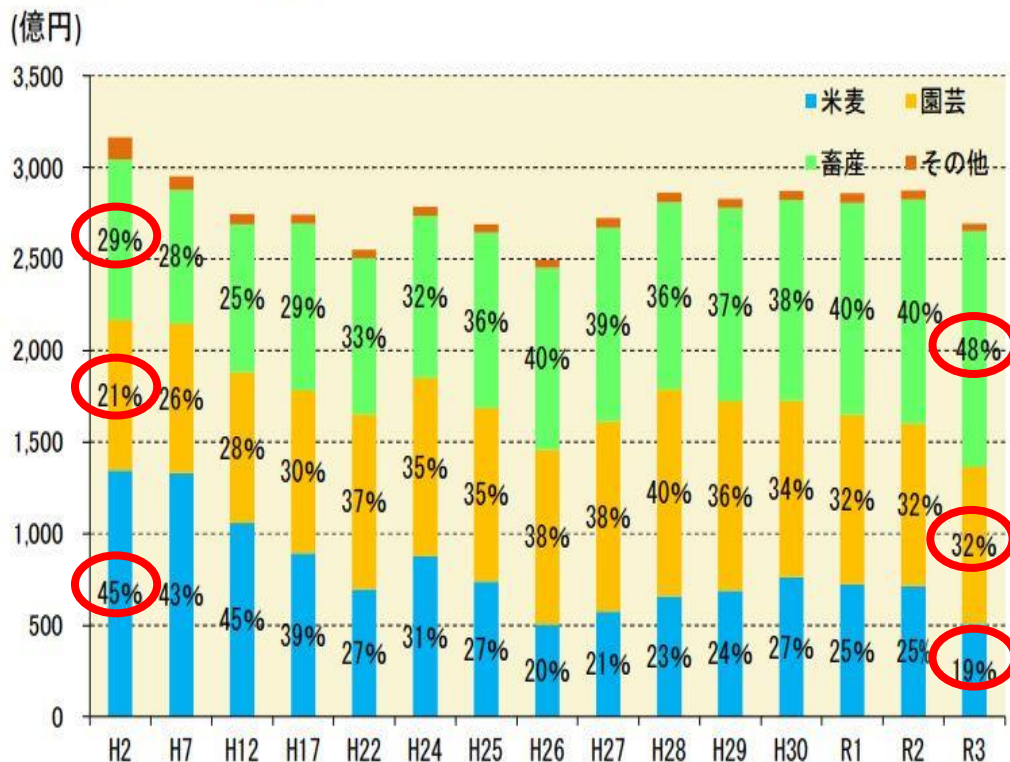
1位 北海道 12,919億円

2位 鹿児島県 5,114億円

3位 茨城県 4,409億円

4位 千葉県、5位 熊本県、6位 宮崎県、7位 青森県、8位 愛知県、10位 長野県

農業産出額



とちぎの農産物産出額ベスト10

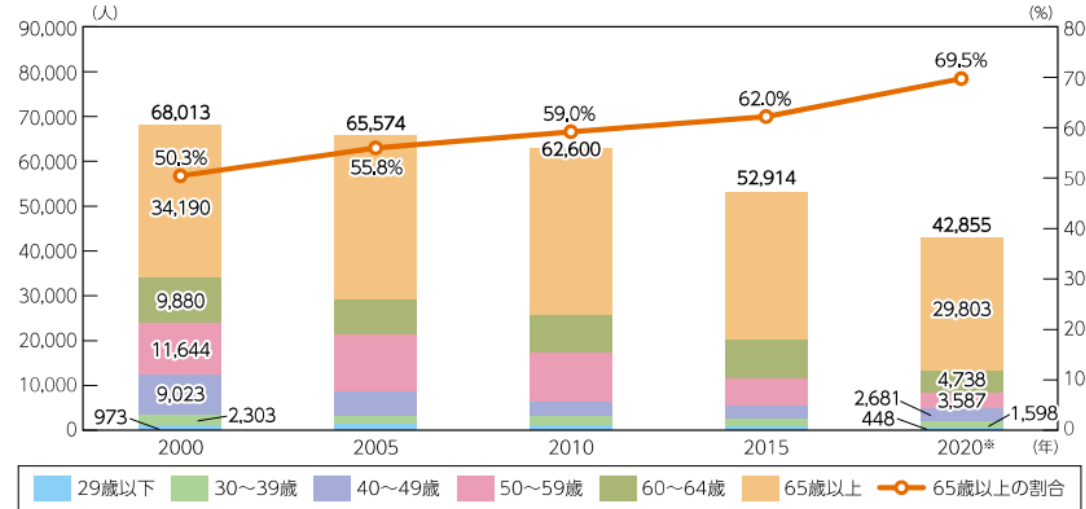
順位	品目	産出額(億円)	構成比(%)	全国順位
1	米	453	16.8	10
2	生乳	402	14.9	2
3	豚	307	11.4	8
4	鶏卵	255	9.5	5
5	いちご	248	9.2	1
6	肉用牛	243	9.0	8
7	もやし	111	4.1	1
8	トマト	69	2.6	7
9	乳牛	64	2.4	2
10	なし	54	2.0	3

栃木県の農業の現状

担い手の動向

- 販売農家数や農業就業人口は年々減少
- 基幹的農業従事者に占める
65歳以上の高齢者の割合が増加

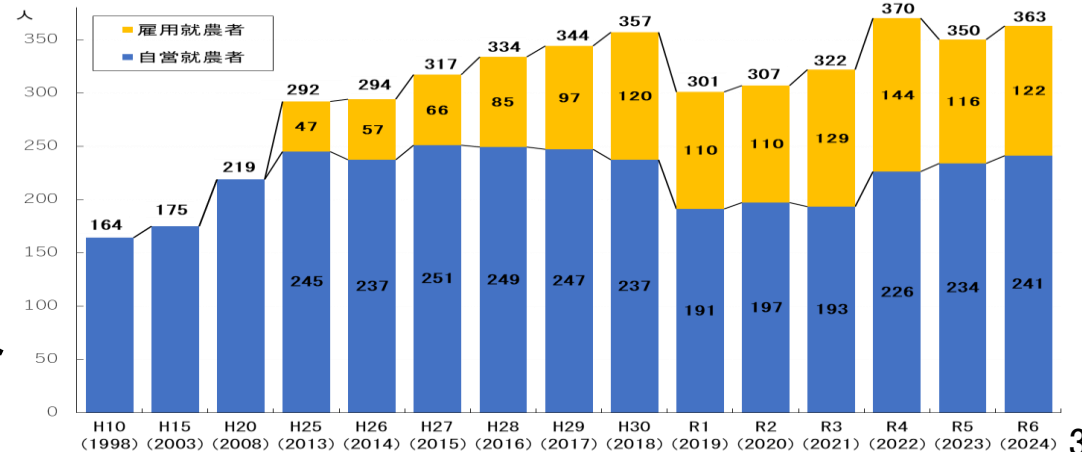
年齢別基幹的農業従事者数の推移



資料：農林水産省「農林業センサス」
※2020年は概数値

基幹的農業従事者：自営農業に主として従事した世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者

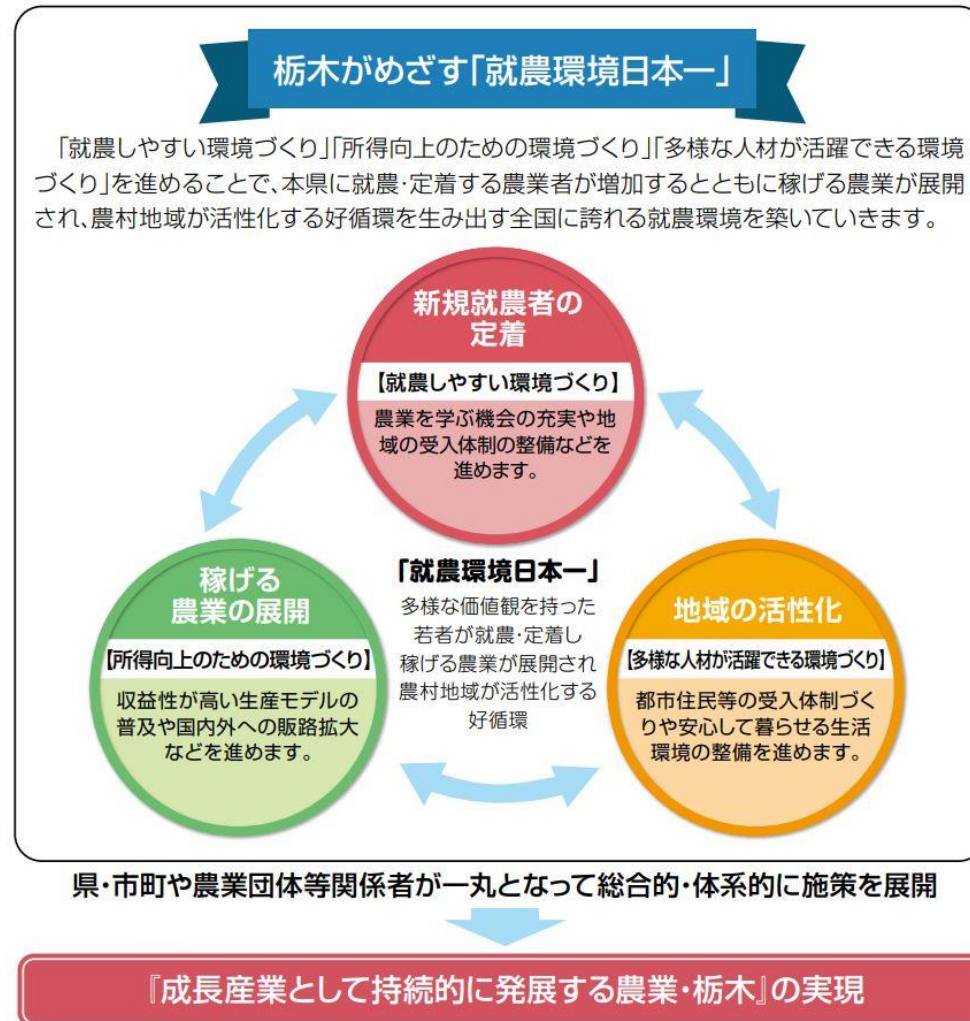
- R6年度の新規就農者数は、前年度比13人増の363人（104%）
自営就農者（7人増、103%）
雇用就農者（6人増、105%）
- 自営就農者のうち農業以外からの新規参入者は前年度比11人増の71人（前年度比118%）で過去最高



栃木県農業振興計画「とちぎ農業未来創生プラン」

計画期間：5年間（2021～2025）

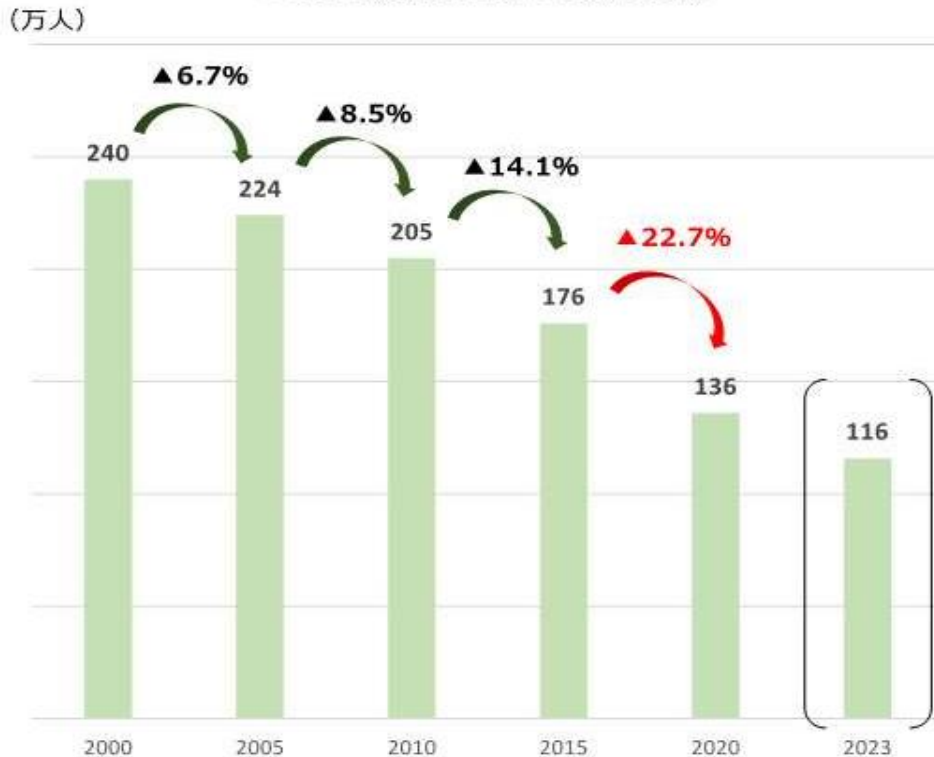
基本目標：成長産業として持続的に発展する農業・栃木



課題例その1：農業従事者の減少

- ・ 基幹的農業従事者数は年々減少し、高齢化が進展 ※栃木県も同じ傾向
- ・ 国の予想では、基幹的農業従事者数は20年後に現在の1/4に減少

基幹的農業従事者数の推移



基幹的農業従事者数の年齢構成 (2023年)



資料：農林水産省「農林業センサス」（2023年のみ「農業構造動態調査」であり第一報）。

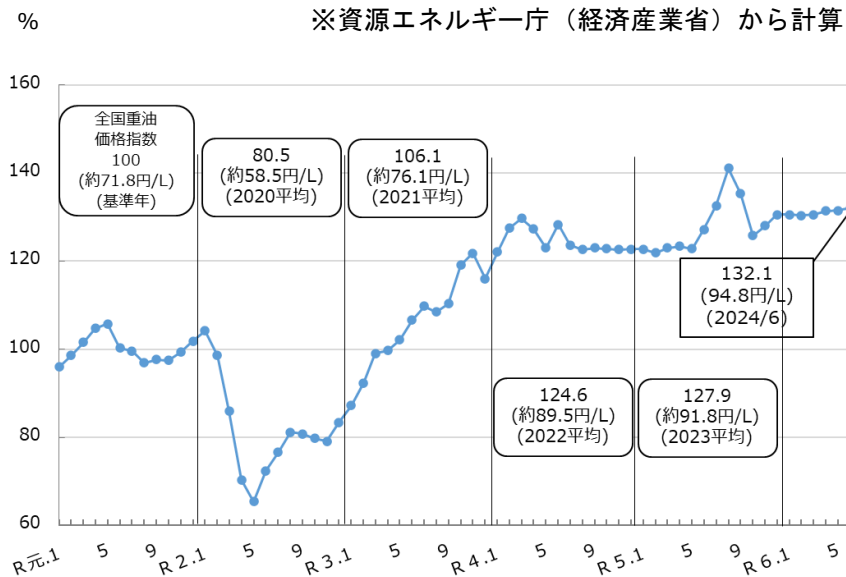
注：基幹的農業従事者とは、15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者（雇用者は含まない）。2010年までの数値は販売農家であり、2015年以降は個人経営体の数値であることに留意。

課題例その2：資材高騰

コロナ禍や国際情勢の不安定化、需要の変化などの影響で、全体的に高騰・高止まりの状態

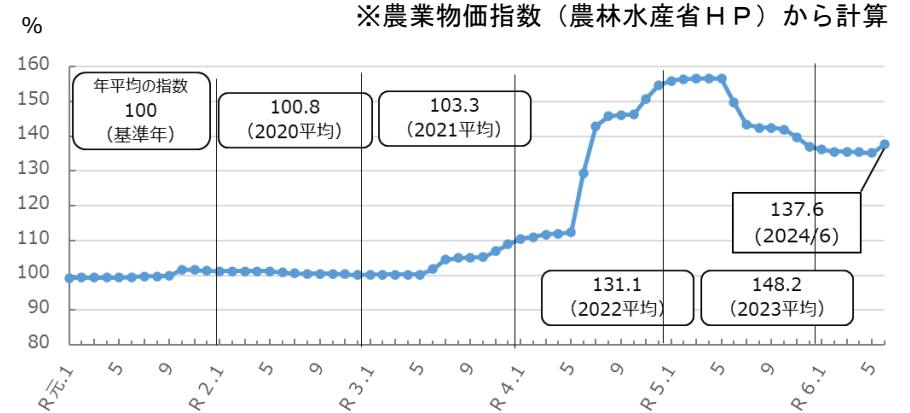
燃料（A重油）の状況

全国A重油価格指数の推移（令和元年比）



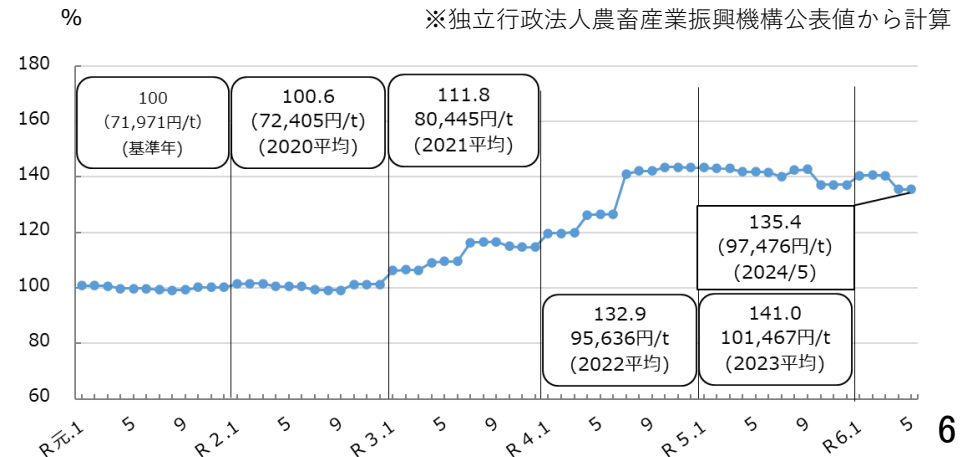
肥料の状況

肥料物価指数の推移（令和元年比）



配合飼料の状況

配合飼料価格指数（令和元年比）の推移



課題例その3：気候変動による異常気象

- ・ 2004年～2023年までの20年間で、184回の農業気象災害が発生し、被害総額は約379億円。直近10年間では、被害額は約4.4倍に増加。
- ・ 記録的猛暑となった令和5年産は、夏季の高温・少雨により、各品目において品質低下や生育遅延の影響が一部で発生

	2004～2013		2014～2023	
	発生回数 (回)	被害金額 (百万円)	発生回数 (回)	被害金額 (百万円)
災害全体	95	7,068	89	30,811
台風	18	1,320	12	7,653
降雪	2	21	5	14,863
降霜・低温（春）・降雪（春）	5	2,165	7	2,261
その他（大雨、突風、降雹など）	70	3,563	65	6,035

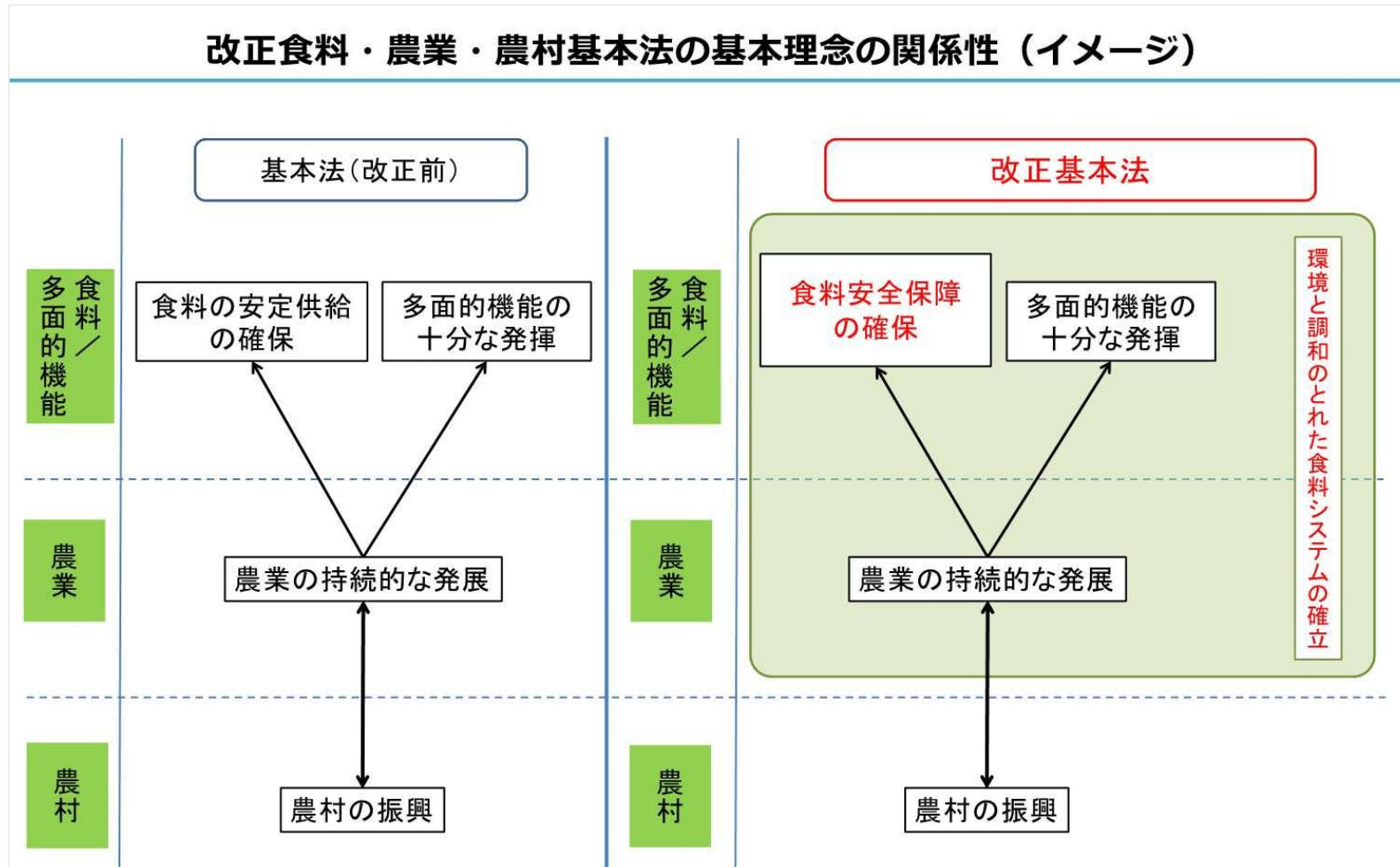
農業気象災害データベース・災害検索システムより

※被害金額は、農作物、農業用施設（ハウスなど）、その他（畜産・漁業）の被害額。
土地改良施設の被害額は含まない。

国の動き

◆食料・農業・農村基本法改正法の成立

世界及び日本の食料をめぐる情勢が大きく変化していることを受け、四半世紀ぶりに、基本理念を見直し、具体的な施策を制定。



国の動き

◆国民一人一人の「食料安全保障」を基本理念の中心に

- ・国民一人一人の「食料安全保障」を柱として位置付け
- ・国内の農業生産の増大を基本とし、安定的な輸入・備蓄について新たな位置付け
- ・農業生産基盤等の確保のための輸出の促進を新たに位置付け
- ・合理的な費用を考慮した価格形成を新たに位置付け

◆「環境と調和のとれた食料システム」を新たな基本理念に

- ・環境と調和のとれた食料システムの確立を基本理念として位置付け
- ・多面的機能は環境負荷低減が図られつつ発揮されなければならない旨を位置付け

◆人口減少下における農業生産の方向性を明確化

- ・人口の減少に伴う農業者の減少等が生ずる状況においても、（食料安全保障の確保の前提となる）食料の供給機能や多面的機能が発揮され、農業の持続的発展が図られなければならない旨を明記
- ・農業生産の方向性として、「生産性の向上」「付加価値の向上」「環境負荷低減」を位置付け

◆人口減少下における農村の地域コミュニティの維持を明確化

- ・「農村の振興」の方向性として「地域社会の維持」を位置付け

◆「食料システム」の位置付けと関係者の役割を明確化

- ・環境負荷低減や費用を考慮した価格形成など、食料の生産から消費までの関係者が連携して取り組むべき課題が顕在化していることから、「食料システム」を新たに位置付け。併せて、関係者の役割を拡充・新設。

国の動き

食料安全保障と食料の安定供給について、分かりやすい情報発信に努める他、国民の行動変容を促すための国民運動「ニッポンフードシフト」を展開

食から日本を考える。

NIPPON FOOD SHIFT

食と環境を支える農業・農村への国民の理解と共感・支持を得つつ、国産の農林水産物の積極的な選択といった具体的な行動変容に結びつくよう、若者（Z世代）を重点ターゲットとした官民協働による国民運動として「食から日本を考える。ニッポンフードシフト」を展開

知ってる?日本の食料事情
～日本の食料安全保障と食料自給率・食料自給～

ニッポンフードシフトとは? 推奨パートナーについて

ログイン 登録

SEARCH

自給率計算機 TOP NEWS おにぎりから日本を考える。 餃子から日本を考える。

カレーから日本を考える。 NIPPON FOOD SHIFT

ハウス食品×農林水産省 『ニッポンフードシフト by CURRY』 ～全国の夏野菜とカレーから日本を考える～

餃子になる すべからず 餃子レシビ

Topics

やんばるの食でつなぐ地域の未来など4つの事例を新たに掲載いたしました!ぜひご覧ください!

note 最新情報

地元では食べられていなかった?奈良の高級伝統野菜「大和丸なす」の地産地消を目指す取組 [Vol.2]

ニッポンフードシフトムービー 「食から日本を考える。」 私たちと、食の未来を一緒に考えてみませんか?

注目のキーワード

知る 調べる 行動する 関連情報